

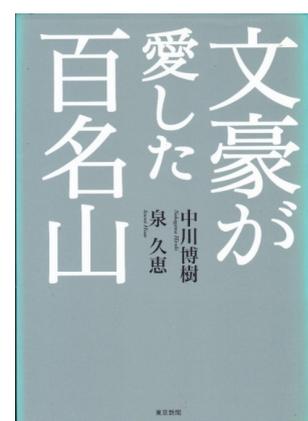
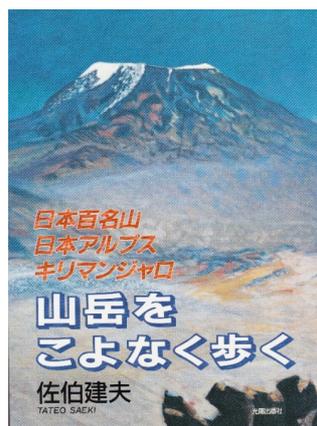
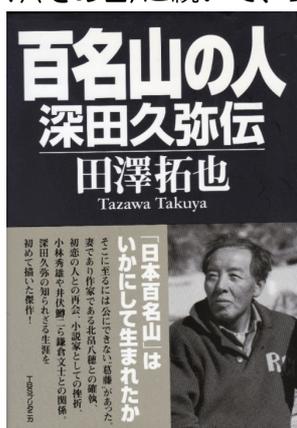
山の本を並べて瞑想に耽る（新追加版）

室井 隆良

ふろタン工房のホームページをご覧になった方から色々感想などが届くのはふろタンインタビューとふろタン技研レポートです。

2014年12月10日にスタートしたインタビューコーナーは2020年1月7日の第11回「ミャンマーとの絆今泉ビルマ奨学会」で止まったままになっていて現在再開検討中ですが、技研レポートコーナーは2018年4月28日「二都物語研究会」第30回記録誌の8名のメンバーメッセージをVol.0として掲載してから、2018年10月31日に宮本保宏氏の「いちばん近い国ー中国」がVol.1としてスタート、コンパクトでビジュアルな宮本氏のレポートをベストサンプルとしてその後の技研レポートの執筆をお願いする方にお渡しし、皆さんから趣旨に沿ったレポートを頂いて2022年10月31日のVol.21まで掲載してきました。

その中で唯一10ページを超えるボリューム違反(?)のレポートが2020年7月1日付のVol.10室井執筆の「日本百名山」から「世界百名山」へで、山の本を並べて瞑想に耽る(その1)(その2)に続いて、最終



章が永世中立国へのチャレンジという構成の13ページのレポートです。

頭書きに「4月7日に新型コロナ緊急事態宣言が出て外出自粛の引き籠もり生活、感染防止のため夏の富士山閉山までがニュースになり、書棚の一角を占めている山の本を時々読み直しながら整理作業をし技研レポートを纏めました」という言い訳を書

いていました。

その後の2020年12月21日付の技研レポートVol.13で、ふろタン工房設立時からの会員メンバー青柳志郎さんが書いた「市民の森づくり・北海道のある町での活動」は、NPO北広島森林ボランティア・メイブルの活動を北広島の自然の写真を沢山載せた4ページのコンパクトでビジュアルなベストサンプルのようなレポートでした。

青柳さんはミャンマー軍事クーデターから1年が過ぎた2022年2月1日にお亡くなりになり4月23日付のふろタン通信42号でお伝えすることになってしまいました。



山の本を並べて瞑想に耽る（新追加版）は、青柳志郎さんへの追悼レポートです。

1. 山の本の横に並んだ野鳥の本

東京から北海道に移住した青柳さんとその逆移住の私は大学時代からの友人で、北海道で会ったり東京で会ったり大学の弓道部仲間と信州で会ったりと、永く楽しい付き合いを続けてきました。「市民の森づくり・北海道のある町での活動」の後も「又何か書いてよ」と話していましたが叶わぬことになってしまいました。

青柳さんが元気だった時に私宛に送ってくれた2019年10月4日の日付の一枚のメモのような手紙があります。私が9月21日に恵比寿の東京都写真美術館での「嶋田忠野生の瞬間展」に行ってきたことを電話で知らせたら、こちらの新聞にも出ていたよと嶋田さんの大きな写真が載った9月21日付の北海道新聞の切り抜きが送られてきてその中で嶋田さんは「千歳に移ったのはカワセミの仲間アカショウビンを追うため、青々しいカワセミと対照的に真っ赤な《火の鳥》だ」と話していました。

青柳さんの手紙には「去年から女子高生が主人公の妄想小説を執筆中で、室井さんが30年前に千歳の丸太小屋に来てアカショウビンを見たことも書いています。第一部が終わって第二部になったところ、**まだまだ続きます**。北海道に来る機会があればいつでも寄ってください。丸太小屋で飲み明かしましょう」と書かれていました。

まだまだ続きますと書いて送ってくれた妄想小説の「第一部」と「第二部」の2冊の原稿が届きました。執筆中の小説のタイトルは「その日から・・・」になっていましたが、その後は暫く連絡も途絶えたままになっていました。

そして2022年2月1日に逝去され、2022年12月1日に青柳恵美子さんから志郎さんが書きためた数多くの文章を娘さんがまとめたファイルが送られてきました。

仕事のこと・家族のことなど沢山の想いが書かれた中に、「夢」と題した2021年10月9日の日付を書いた文章がありました。これを読んで「第一部」と「第二部」に

続く私が待っていた文章を、亡くなる前に青柳さんが夢に載せてそっと届けてくれた
と思いました。

私の狭い仕事部屋の書棚に並んでいた山の本が、
技研レポート Vol.10 の「日本百名山」から「世界
百名山」へに書いた「百名山の人・深田久弥伝」
「山岳をこよなく歩く」「ニッポン百名山よじ登り」
「文豪が愛した百名山」「傷だらけの百名山」
「みんな山が大好きだった」。

その横に並んだのが嶋田さんの写真集「カワセミ
清流に翔ぶ」「カムイの夜シマフクロウ」「ウトナ
イの鳥」「森に生きる」で、いずれも青柳さんから
私宛に送られてきたものです。



2. 小説「その日から・・・」の出版に向けて

青柳さんが元気な時に受け取った「第一部」と「第二部」の2冊の原稿、亡くなら
れてから恵美子奥さんが届けてくれた最後の贈り物「夢」で小説「その日か
ら・・・」が完成しました

青柳さん逝去のお知らせを載せたふろたん通信 42
号のシマフクロウと並んだ青柳さんの写真は嶋田忠フ
ォトギャラリーの会場で青柳・嶋田・室井三人並んで
撮った写真から切り取ったものです。

青柳さんの普段の呼び名は「志郎ちゃん」でした。
志郎ちゃんどうもありがとう！

ふろんていあタウン工房では出版事業の4冊目の
本として「その日から・・・」の発行を準備中です。
楽しみにお待ちください。

